



岩村の歴史 シリーズ(Ⅱ)

シリーズ(Ⅰ)では、岩村の地名の由来や、古代から中世までの岩村郷内を構成する村名について述べた。

近世の江戸期から明治初期までは、現在とほぼ同じで金地・包末・神通寺・堀ノ内・福田・蔵福寺島・京田(立石を含む)・岩次・松本の九か村で構成されていた。

る。この九か村の石高を合計すると二七一七石余である。福田村の東に石高は書いていないが、船渡村という小村があったという記録が残り、明治二十二年からは、福田・船渡が一緒になり福船と標記されるようになっていた。

京田村はしばしば経田村と標記されており、岩次村は江戸初期までは徳松村と称していた。明治二十二年から、昭和三十四年南国市に分村合併するまで、右の九か村が九つの大字となっており、岩村を構成した。

いようである。明治初期の主要農作物は、米、裸麦、蕎麦、胡瓜、真綿等。特に胡瓜、真綿は岩村の特産物であったようである。

昭和三十四年十月一日、堀ノ内・包末・金地・福船が南国市発足と共に南国市となり、松本・神通寺・岩次、京田(立石含む)蔵福寺島(後年山田町をはずれ南国市となる)は土佐山田町に合併した。

岩村の氏神である神奈地祇神社の前にあった、岩村小学校(岩村の中心地)の所までが土佐山田町となり、つまり南国市の北限となった。

南国市は香長村(旧、日章・前浜・三和・十市・稲生・大篠)、後免町(旧、上倉・瓶岩・久礼田・国府・長岡・旧後免町)、岡豊町、野田村、(介良村内の伊達野地区)それに岩村の計五町村の合併によるものである。

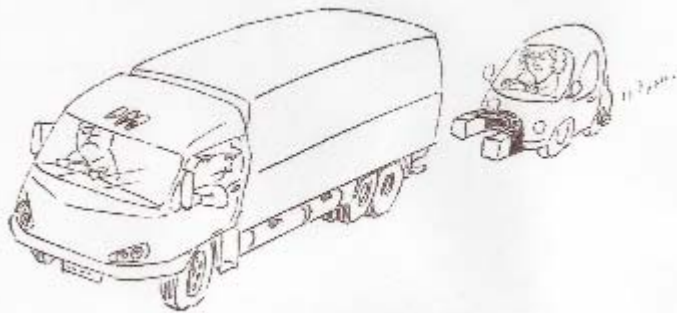
大盛況だった 敬老会

以下次号
藤本真事さん
寄稿

去る九月二十七日



漫画家 岩本タケオさん



いやな省エネ車だぜ・・・

岩村社会福祉協議会